



福島再生・未来志向プロジェクト

「福島」×「脱炭素・資源循環・自然共生」

令和元年8月30日

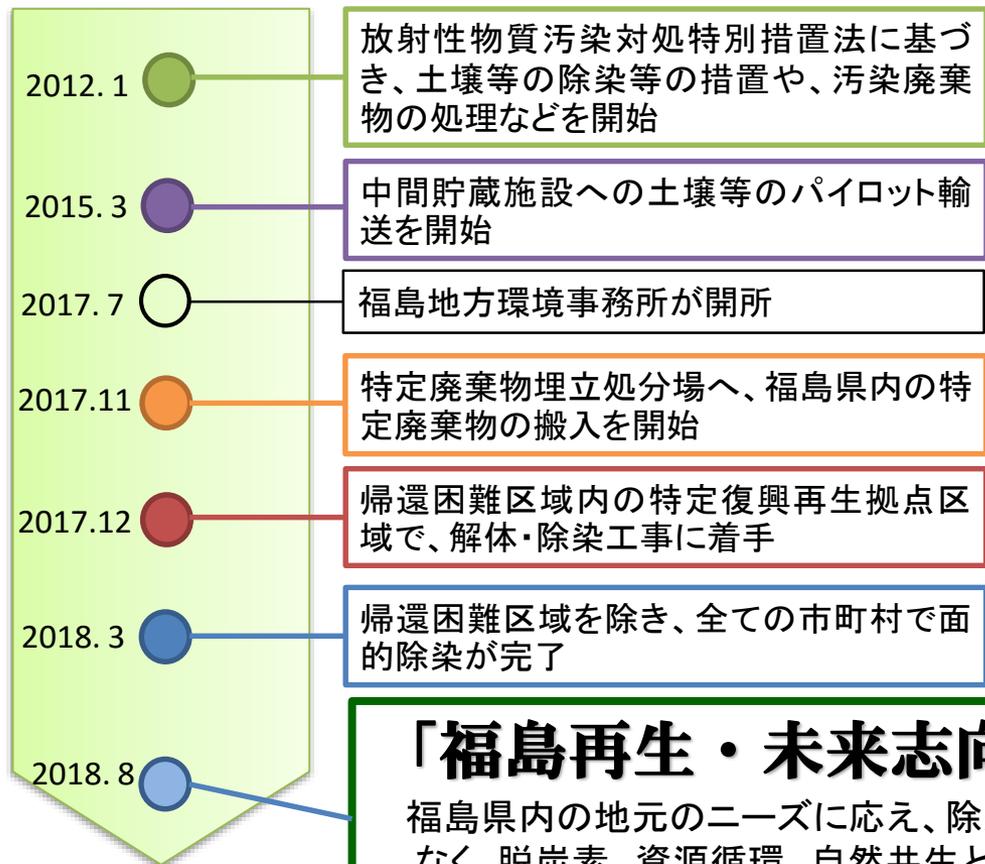
環境省 環境再生・資源循環局

福島再生・未来志向プロジェクトチーム



環境再生の歩みと未来志向プロジェクトの着手

- 2017年8月、福島県内堀知事が、環境大臣の面会に際し、環境再生のみならず、復興の新たなステージに向け、**環境省の得意とする分野で未来志向の取組の推進を要望**
- 省内に未来志向プロジェクトチームを発足**
- 2018年8月、環境大臣が内堀知事に「**福島再生・未来志向プロジェクト**」を報告し、スタート。



環境再生の取組



津波による災害廃棄物の処理



除染による線量低減



指定廃棄物の処理



被災家屋等の解体

「福島再生・未来志向プロジェクト」のスタート

福島県内の地元のニーズに応え、除染や汚染廃棄物対策といった環境再生の取組だけでなく、脱炭素、資源循環、自然共生といった環境省の得意分野においても、福島復興の新たなステージに向けた取組を地元と連携しながら全省的に推進。

福島再生・未来志向プロジェクトの進捗状況

「福島」×「脱炭素・資源循環・自然共生」

令和元年8月時点

基本的な考え方

- ▶ 福島県内の地元のニーズに応え、環境再生の取組のみならず、脱炭素、資源循環、自然共生といった環境省の得意分野と福島との連携を深め、福島復興の新たなステージに向けた取組を推進。
- ▶ 環境省事業を効果的に組み合わせ、また、放射線健康不安に対するリスクコミュニケーションや広報・情報発信を通じて地元寄り添いつつ、分野横断的な政策パッケージを戦略的に展開。

産業創生への支援

<かなりわいの復興>

- 福島イノベーションコースト構想の下、資源循環型産業の創生を支援。今年7月に地元企業を含む共同事業として不燃物リサイクル施設の建設に着手



不燃物処理施設イメージ



- 先端リサイクル技術の実証や事業化に向けた取組を推進（使用済み太陽光パネルのリサイクルや、人工知能を使った自動選別システム等）

使用済み太陽光パネルの先端リサイクル技術の例

ふくしまグリーン復興への支援

<自然資源活用による復興>

- 今年4月に福島県と共同で策定した「ふくしまグリーン復興構想」に基づき、国立・国定公園の魅力向上等の取組を推進
- 環境にやさしいツーリズムやCO₂排出の少ない交通技術の活用を検討



尾瀬沼ビジターセンター完成予想図

脱炭素まちづくりへの支援

<暮らしの復興>

- 脱炭素社会の実現に向けた新たなまちづくりを支援
- 平成31年度は、暮らしの足を確保するバスシェアリング、ソーラーシェアリングやバイオマスによる地域エネルギーシステム、スマート農業や人工知能の活用等のF S 査5件を実施中



復興作業に必要とする
多岐の輸送の足

暮らしの足

災害復興に向けた地域
資金としての導入を
（ソーラーシェアリング）

環境省の得意分野との連携強化
環境再生・リスコミ
×
脱炭素・資源循環・自然共生
復興・再生に貢献

地域活性化への支援

<リスコミ・情報発信による復興>

- 特定廃棄物埋立情報館「リブルンふくしま」等を活用し、ホープツーリズムに貢献
- 檜葉町で首都圏等の学生のボランティアによる「米作り」を開催、富岡町で「えびす講市」を共催
- 新宿御苑で行われるイベント開催時に出席し、福島マルシェの開催に協力



リブルンふくしま内観



檜葉町における田植えイベントの様子

情報発信

<福島再生・未来志向プロジェクト シンポジウム、現地見学会の開催>

- 今年6月、環境省と国立環境研究所の主催により、自治体関係者や県内外の企業関係者ら約220名が参加。パネルディスカッションで、浜通り地域の現状と今後について議論が行われた。
- シンポジウムの翌日に、現地見学会（バスツアー）を実施し、復興再生拠点事業、まちづくりの活動、スマート農業の現場や、廃炉・環境再生事業関連施設の現場を見学。



産業創生への支援

〈なりわいの復興〉

福島イノベーションコースト構想の下、資源循環型産業の創生を支援。
今年7月に地元企業を含む共同事業として不燃物リサイクル施設の建設に着手

- 2018年度廃棄物処理施設整備事業費補助金 廃棄物リサイクル施設整備事業(69億円)。
- DOWAエコシステム株式会社ほか、地元企業を含む8社の協同実施事業を採択。
- 「(株)相双スマートエコカンパニー」として、双葉郡大熊町に同施設を建設予定。



不燃物処理施設イメージ

先端リサイクル技術の実証や事業化に向けた取組を推進(使用済み太陽光パネルのリサイクルや、人工知能を使った自動選別システム等)

太平洋セメント株式会社、東京パワーテクノロジー株式会社、株式会社クレハ環境(いわき市)、荒川産業株式会社(喜多方市)、恵和興業株式会社(宮城県仙台市)、株式会社高良(南相馬市)、メルテックいわき株式会社(いわき市)

福島イノベーション・コースト構想

福島イノベーション・コースト構想の実現に向けた重点的取組



廃炉研究



ロボット



エネルギー



農林水産



環境・リサイクル



大学研究/教育
人材育成

国立公園・国定公園の 魅力向上

自然公園の魅力を活かし、磨きあげ、公園の特徴をいかしたコンテンツを創出。

- インバウンド対策
サイン等多言語化/サービス向上
- 景観の改善
ビューポイントの選定・整備
- エコツーリズムの推進
ファムトリップ



- 自然環境の保全
- 二次交通の検討



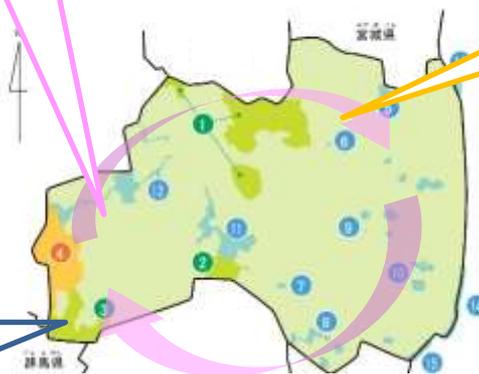
- 利用拠点の整備
・充実

尾瀬沼ビジターセンター整備 等

環境変化を踏まえた 県立自然公園の見直し

只見柳津県立自然公園と越後三山只見国定公園を一体的に管理し、保護と適正利用を推進するための調査、検討。

- 県立自然公園の国定公園編入
自然環境調査/協議/連携



国立公園・国定公園を中心に福島 県内を広く周遊する仕組みづくり

自然資源等をつなぎ合わせ広域周遊や何度も訪れたくなる仕組みを構築。

- ロングトレイルを含む
周遊ルートの設定
ホープツーリズムと連携



- 周遊促進の仕組みづくり



- 多様な移動手段の検討

脱炭素まちづくりへの支援

- 福島特措法に基づく復興再生拠点等を対象として、「復興まちづくりと脱炭素化の両立」に向けた取組を推進するためのフィージビリティ・スタディーを実施。
- 環境回復事業と連携しつつ、脱炭素や、地域循環共生圏、SDGsの視点を最大限ビルトインした町の復興の絵姿を描き、CO2削減効果の評価や、事業実現可能性の検証を実施。

脱炭素「まち・くらし創生」FS事業の状況

●企業バスの共同利用等による輸送効率化

対象地域：大熊町、富岡町、浪江町、双葉町
 事業概要：①企業バス等の共同利用、運行効率化によるCO2排出量削減（統合、EVやFCVバスの導入）によるCO2削減効果の検証 ②企業バス等の地域の暮らしの足への活用による復興支援

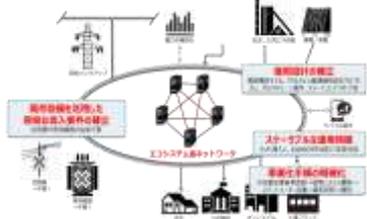


▲水素 (FCV) バス



●ソーラーシェアリング発電による営農再開支援

対象地域：大熊町
 事業概要：①ソーラーシェアリング発電による営農再開支援②木質バイオマス熱供給、それらを運営する。③エコシステム型ネットワーク構築の検証



●資源作物を用いた乾式メタン発酵バイオマス発電による地産地消エネルギー供給事業

資源作物(エリアンサス等)

対象地域：大熊町
 事業概要：資源作物を用いた乾式メタン発酵バイオマス発電による地産地消エネルギー供給事業の実現可能性の検証と営農再開支援策の検討



●農林業の高効率化による脱炭素・復興支援

対象地域：富岡町
 事業概要：農地集約及びドローン・IoT等を活用した農林業の高効率化による営農再開及び森林管理支援と、地域の木質資源活用によるエネルギー供給の検証

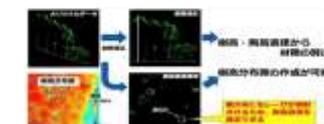


▲試験栽培中のワイン用ぶどう

② 森林管理支援と木質資源活用によるエネルギー供給



▲ドローン+レーザによる計測イメージ



▲森林資源の情報把握イメージ

復興と新しい産業の創造⑤ 発信

地域活性化への支援

- 学生と町の方々と共に農作業を行いながら交流
- お米の安全性についての勉強会を行った後に都内他でPRイベントを実施

交流の機会の創出

田植え



稲刈り



町の魅力を伝える情報発信

米の安全性勉強会



PRイベント



様々な主体との連携・協力

○自治体、まちづくり団体、教育機関、企業等、様々な主体と連携・協力

国・自治体等

復興庁	富岡町
経済産業省	楡葉町
福島県	大熊町
東京都	双葉町
新宿区	二本松市
各教育委員会	白河市

公益企業等

(社) とみおかプラス	(社) ONE福島
富岡町商会	(社) おおくままちづくり公社
(社) ならはみらい	(財) 国民公園協会
(財) 楡葉町振興公社	(社) 福島県木材協同組合連合会
(財) 福島県物産交流協会	(国研) 日本原子力研究開発機構 など

オリンパス (株)	JAさくら
日本生活協同組合連合会	日本オラクル (株)
JR東日本 (株)	東京電力 (株)
カネコ種苗 (株)	(株) ふたば
タキイ種苗 (株)	(株) 鈴研 など

民間企業等 (CSR)

法政大学	東日本国際大学	明治大学
明治学院大学	早稲田大学	立教大学
関東学院大学	慶應義塾大学	一橋大学
神戸大学	明星大学	学芸大学
神戸大学大学院	東洋大学	など
神戸松蔭大学	芝浦工業大学	
東京農業大学	九州大学	
東京理科大学		
東洋大学	東京都立農業高校	
日本大学		

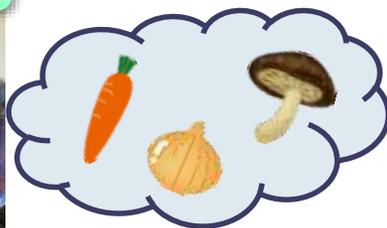
教育機関

「放射線リスクコミュニケーション相談員支援センター」(いわき市)

- 自治体のニーズを踏まえて、日常生活、健康など様々な観点から放射線に関する不安や疑問に応える支援を実施
- 正確に伝えるというだけでなく、暮らしに通じる身近なテーマに沿った説明、体験的なコンテンツを用意



食べ物をテーマに車座



子育てカフェ



放射線の授業



リプルンふくしま見学



浄水場・ダム見学



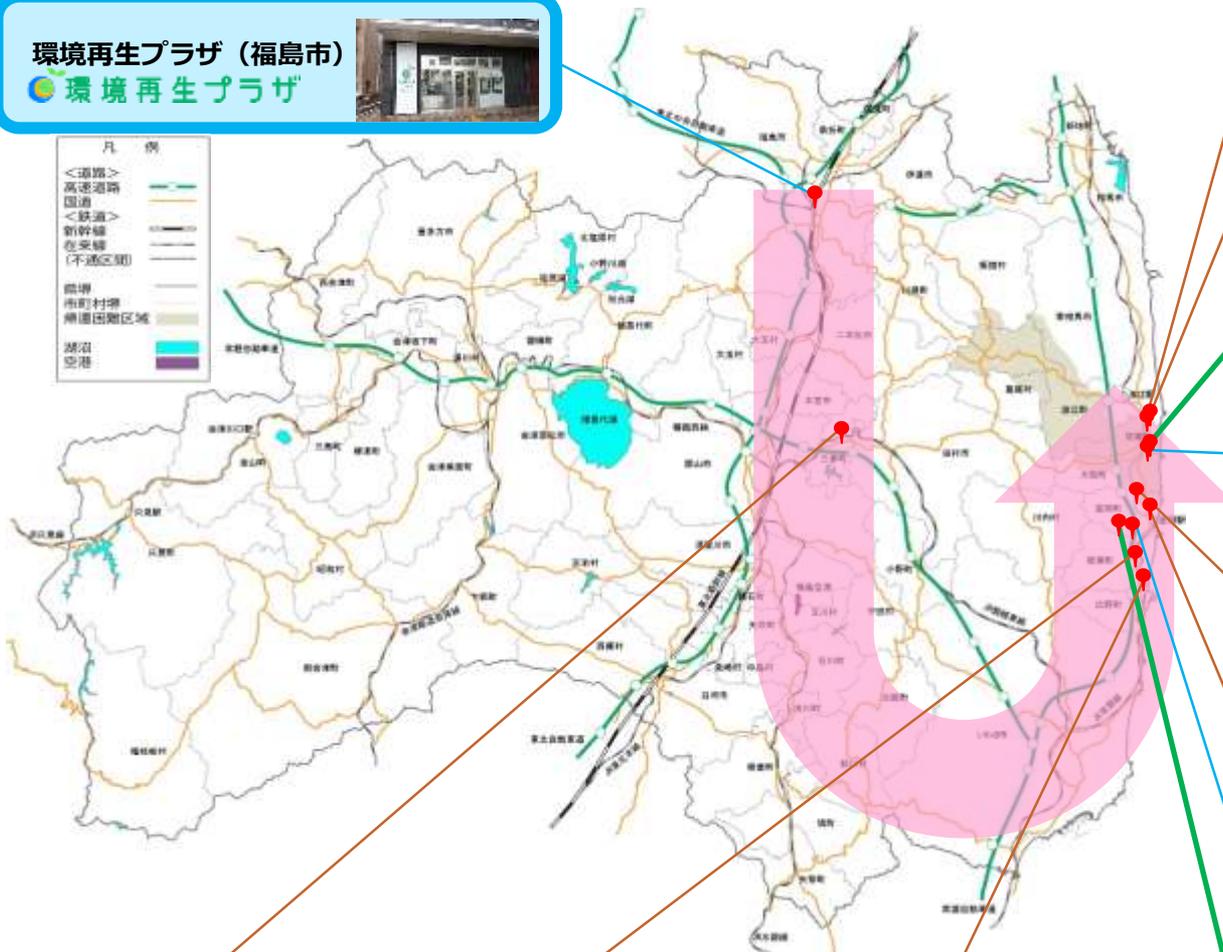
● 環境省の環境再生事業関連施設と近隣施設の連携によるホープツーリズムの検討

環境再生プラザ（福島市）

環境再生プラザ



凡 例	
<道路>	
高速道路	
国道	
<鉄道>	
新幹線	
在来線	
不通過区間	
国境	
市界	
町界	
村界	
指定地域	
湖沼	
空港	



復興祈念公園
（浪江町、双葉町）2020中予定

東日本大震災・原子力
災害アーカイブ拠点施設
（双葉町）
2020.7~9予定



中間貯蔵施設
（大熊町・双葉町）



中間貯蔵工事情報センター
（大熊町）



富岡町アーカイブ施設
（富岡町）2020予定



東京電力廃炉資料館
（富岡町）



特定廃棄物埋立情報館
リプルンふくしま
（富岡町）



特定廃棄物
埋立処分施設
（富岡町）



福島県環境創造センター
コミュン福島（三春町）



ならはCANvas
（楡葉町）



Jヴィレッジ
（楡葉町
広野町）



- 本プロジェクトについて、地域のニーズを踏まえ大きく発展させるため、6月21日「福島の復興と未来に向けて」と題して、福島県いわき市でシンポジウムを開催。
- 環境省と国立環境研究所の主催により、自治体関係者や県内外の企業関係者ら約220名が参加。パネルディスカッションで、浜通り地域の現状と今後について議論。
- 翌22日に、現地見学会（バスツアー）を実施し、復興再生拠点事業、まちづくりの活動、スマート農業の現場や、廃炉・環境再生事業関連施設の現場を視察（ホープツーリズムの可能性を検討）。

●シンポジウム「福島の復興と未来に向けて」

主催：環境省、国立研究開発法人国立環境研究所

共催：経済産業省、福島県

後援：復興庁、（公社）福島相双復興推進機構、
（公財）福島イノベーション・コースト構想推進機構



パネルディスカッション「福島の復興と未来について」

モデレーター 大原 利眞（国立環境研究所 福島支部 フェロー）

パネリスト 伊藤 泰夫（（公財）福島イノベーション・コースト構想推進機構 専務理事兼事務局長）

遠藤 秀文（（株）ふたば 代表取締役）

黒沢 知子（新地町 企画振興課 主任主査）

須藤 治（（公社）福島相双復興推進機構 専務理事）

飛田 実（DOWA工コシステム（株） 代表取締役社長）

藤田 壮（国立環境研究所 社会環境システム研究センター長）

武藤 淳（（公財）福島県観光物産交流協会 観光部長）

則久 雅司（環境省 環境省環境再生・資源循環局参事官）

●現地見学会

大熊町、富岡町、楡葉町で歩み出した復興の取組みや原子力災害からの環境回復に関する施設などを視察。



↑脱炭素「まち・くらし創生」FS事業の現場を見学。スマート農業（ドローン+レーザーによる計測のデモンストレーション）を視察

とみおかワイン葡萄栽培クラブ小浜園場



←復興再生拠点整備事業を視察

大熊町役場 新庁舎



道の駅ならば 郷土料理マミーすいとん



東京電力廃炉資料館



中間貯蔵工事 情報センター



ならばCANvas 10